

## 令和8年度岩手県立盛岡第三高等学校第1回学校運営協議会【議事録】

1 開催日時 令和8年4月30日(木) 15時20分～16時30分

2 開催場所 盛岡第三高等学校 大会議室

3 出席者 9名/13名

(自治会代表、PTA代表、行政関係、近隣小中学校長、地元企業、同窓会代表、本校校長)  
櫻 裕子 白根 徹 高木 浩一 千田 幸喜 土川 敦 長嶺 葉名  
藤村 誠 村井由紀子 菅野 幸貴(校長) 以上9名 (委任状提出者 4名)  
(オブザーバーとして、校内委員(副校長、事務長、各分掌主任)10名、生徒会役員3名)

4 会議内容 1) 学校経営計画  
2) 意見交換

5 質疑内容

※学校経営計画について、学校長より説明(割愛)。なお、以下に示す内容は、時系列に沿ったものであることを付記する。

[司会]: 学校経営計画について、質問意見はないか。

【委員】: 地域企業について、三高ではどのぐらい受け入れ協力をしてもらっているのか。

[経営]: 昨年度、ORP(おひとりリサーチプログラム)関連で、おおよそ10社から15社程度、訪問させていただいた。本年度も1年次を中心に各企業を訪問させていただく予定だ。

[司会]: 企業へのアポイントや開拓などはどのように進めているか。

[経営]: 基本的には生徒にやらせたいところではあるが、去年は、教員が窓口となってアプローチした。事務的な電話のかけ方などをマニュアル化して、生徒自身が電話をかけてアポイントメントを取るなどをさせたいと考えている。

[司会]: 中学校でも企業訪問や職場体験を実施していると聞くが、実際、中学校ではどのように進めているか。

【委員】: 職場体験は、中学校段階でも重要だと思っている。キャリア教育推進の面からも、地域の企業を訪問させていただき、見学や体験をさせていただいている。コロナの影響もあり、若干スピード感が落ちたが重要な取り組みの一環だということで進めている。

[司会]: 中学校での職場体験を踏まえて高校ではさらに発展させている。

【委員】: 中学校の取り組みは、お膳立ては先生方が行い、それを踏まえて生徒が訪問する流れで行っていた。自分で初めて大人と交渉するという体験は、単位制導入後のORPの中では、大切にしたい。

[司会]: 本日参加生徒諸君は、実際にやってみてどうだったのか。

《生徒C》: 私のグループでは4人で、子どもとSNSの関係について調べるため、対象を3歳から5歳ぐらいの子どもとして、三高の向いにある認定保育園に出向いた。実際に働いている保育士の皆さんに取材しまとめた。

《生徒B》: 私は、盛岡八幡宮の目の前にあるそば屋にお邪魔して地域の観光資源を最大限有効に活

用するための飲食店の工夫について探究した。そこでは、地元の食材を使った地産地消の工夫が行われていたことが分かった。

【委員】：三高の場合は、選択肢が広い。他校だと訪問先が決まっていて、同じ場所に人だけが変わっていくスタイルが多い。三高は選択肢が多く恵まれている。

【委員】：話題が変わるが、三高は県外の大学に進学する割合が多いと感じている。親としては県外よりは、地元の国公立大学に入って欲しいと思っている。県外進学を含めて、奨学金についてどのような種類があるかなど、そういった話をもっと発信して欲しい。

[進路]：奨学金については、本校では教務課が担当している。奨学金については、生徒に随時知らせしている。国公立大学だと、学費免除制度とかが充実している。1/3 免除や 1/2 免除など場合によっては全額免除もある。

【委員】：奨学金の扱いについては学校が独自でやっているものなのか、大学で独自で行っているものなのか。

[進路]：大学独自のものは、大学のホームページで案内している。本校で扱っているのは、育英会のものが中心で、ほかに企業から案内が来るものがある。大学を絞っているものなどもある。いろいろなタイプのものであるので、相談していただければと思う。学校に来ているものは、生徒・保護者へ案内している。

【委員】：職場でもワークライフバランスや働き方改革に一生懸命取り組んでいる。県の場合はリモートワークや時差出勤など取り組んでいるが、学校の先生は同じように行うのは厳しい部分があると思う。一生懸命な先生ほど、例えば、残業しないまでも朝早く来たり、あるいは、部活動の指導など現実的に難しい部分もあると思う。かといって、自分の家族があつてこそその仕事という考えもある。時代も変わり、自分達の頃と比べると生徒もだいぶ変わっている。先生方も変わっていかねばと思うので、是非、今回提案の働き方改革について、頑張ってもらいたい。先生方が幸せだからこそ生徒もいい授業を受けられると思っている。

【委員】：魅力化・協働パートナーについて、先ほど、地域企業が 15 社ぐらいという説明があつたが、今後、増やしたいという考えを持っているのか。

[経営]：増やしたいと考えている。

【委員】：素晴らしい人材が県外に出ていくのは惜しいという悩みが企業側にある。岩手には素晴らしい企業があり、自社にはこういう魅力があるということを生徒向けに伝えたい、教えたいという企業がたくさんある。商工会議所でも協力できることがあると思うので、声をかけてもらえばそういった企業へ繋ぐことができると思う。

[経営]：是非、協力をお願いしたい。

【委員】：盛岡市では、シティプロモーションというものを行っている。シティプロモーションとは県外の方に盛岡の魅力を分かってもらふことと、もう一つが、盛岡に住んでいる方に盛岡の魅力を分かってもらふというものだ。それらが、地元離れを防げるのではないかと考えて進めている。三高で行っている、地元企業との連携がいわゆるインナープロモーションという部分で、非常に重要なことと感じた。その取り組みの中に、盛岡市役所も入れていただき、何とか地元定着を進めたい。地元民間企業も公務員も、盛岡のいいところを分かってもらって、ひいては盛岡市役所もパートナーとして考えてもらえればと思う。実際、盛岡市役所には職員の 10 人に 1 人は、三高出身者だ。先輩方がたくさんいる。地元が好き先輩方が多いので、そういったことを含めて、インナープロモーションについても何かお手伝いできることがあれば、また、盛岡市に

対してこういうことをして欲しいということがあれば、話をいただければと思う。

〔司会〕：盛岡市の関係で、市役所の立場からということであった。議会の立場からは何かあるか。

【委員】：魅力化・協働パートナーに繋がれば嬉しいのだが、実は、毎年秋に盛岡市議会で主催者教育の一環として、「高校生議会」を開催している。三高の生徒にも参加いただいた。昨年は、住み続けたい街・盛岡を目指してというテーマで、高校生ならではの視点でたくさん提言をもらった。三高生には、「人口流出対策」の委員会の方へ参加してもらった。私が感心したのは、いろいろな意見交換の中で、「地域連携教育」というものを、是非立ち上げていくべきだと三高生に提言をもらったことだ。これまでありそうでなかった新しい視点だと感心した。今年も高校生議会は開催する予定なので、三高には手を挙げていただき、街づくりに対してのアドバイスいただきたいと思う。できればこの「協働パートナー」に、盛岡市議会も入れていただきたい。本日、その議会に参加した生徒がいるので、参加した感想や意見を聞かせてもらいたい。

《生徒A》：探究活動と関連させて、企業との地域連携教育というところを、人口流出対策委員会で発表させていただいた。その中で、実際に盛岡のことを一番に考えてくださっている議員の方々と話す機会がこれまでなかったので、その時間ができたというのが一番の体験だった。時間がもう少し長くあればさらに良かったと思った。また、高校ごとに委員会が分かれていて、自分の高校の生徒と議員の方々とお話するという形式だった。生徒から出す意見は、高校ごとにあらかじめ話し合っただけで参加していったので、ある程度意見がまとまった状態で議員の方とお話させていただいた。可能であれば、他の高校とミックスさせてもらおうと良いと思った。それぞれの高校ごとに意見を述べる形の方が良いと思った。それぞれの学校で視点が違うと思うので、高校によって調べ方や見え方が違うと思うので、ミックスすることでいろいろな話し合いができると思った。

【委員】：貴重なご意見を参考にさせていただく。

〔司会〕：「目指す学校像」について高校と中学校とは違いがあると思うので、中学校の視点でご意見をお願いします。

【委員】：学校長の丁寧な説明で、本年度の三高のスタンスをイメージできた。特に「目指す学校像」で達成指標を3項目で、それぞれ5ポイントずつ高めて今年スタートしようとしているところに学校の勢いを感じた。この3項目は、なかなか大変だと思うが達成に向けて取り組んで欲しい。先日、三高のホームページを確認する機会があった。「教育相談だより」に感激した。教育相談だより第1号が4月7日始業式の日に発行されていた。4ページもので、1つめが「新学期を迎えたあなたへ」というタイトルで、「春はゆっくり動き出そう」というもので、「友達を作るものではなく時間の中で繋がるもの」という表現もあった。さらには、相談窓口を一覧にして、わかりやすく示し、カウンセラーの紹介もあった。こうしたところが「チーム学校」ということに繋がるのだと感じた。これらが、「心理的安全制」といった部分にも通ずるのかなと感じた。様々な中学校からこちらの学校に進学しており、いろんな子どもたちが集まっている。このような温かさがある学校のスタートということで、是非、ポイントアップした目標を達成できるように思う。この教育相談便りの最後のページには保護者の皆さんへということで、「保護者の皆様の安心や笑顔が子供たちを支える大きな力になります」とのメッセージもあり、本当にいい学校だなと、目指す学校像に向けて、教職員一丸となっているなということを感じた。

【委員】：単位制で探究活動を行いながら進められているということで、模範的な学校として進んでいくのだろうと思って聞いていた。仕事関係でいうと、ジョブカフェは基本的には就労支援では

あるが、数年前から12月くらいに進学校を対象として、進学校から大学に進学して、その後大学から企業などに就職した場合、どのような状況があるかといったことを行っているようだ。また、中小企業同友会といった組織などへの声かけなど有用なのではないか。参考になるのでは、ということで話題提供の一つである。

[司会]：次に、意見交換に移る。まず、学校概況等について説明を。

※副校長より、学校概況について説明（割愛）

[司会]：参加型授業について説明があった。参加型授業について、参加生徒の皆は、どう感じているか。

《生徒A》：1年生の頃に比べて、今が「探究」というところで、自分達で問いを作ってみたりや、「探究」という要素を重ねることが多くなってきたと感じている。それは授業の形や授業の名前が、「探究」と言葉が付くようになったからかもしれない。問いを作って、そしてそれを共有してということが増えてきている。授業を受けて思うのが、以前、校長先生とお話をさせていただく機会があり、その際にもお話させていただいたのだが、三高生はもっと自主性を持つべきだと思っている。学力の3要素のうち「学びに向かう力」という部分がまだ弱いと感じている。このことが、参加型授業の発展を少し妨げていると感じる。生徒から意見を出して活発に議論をするというところが上手く進んでいない。もっと上手くいけるのではないかと感じている。

《生徒B》：参加型授業について実感しているのは、授業によって、この場面で発言していいのかという中学校からしみついている考え方がある。あるいは、どのように反応すればいいのかと困って発言せずに静かになってしまう場面が多いと感じている。それを解消するために授業でグループワークが積極的に取り入れられ、4～5人で意見をしっかり出し合うことができおり、この面は参加型授業になっていると実感している。

《生徒C》：私を感じているのが、学校の教育体制や学校のやり方が問題というよりは、私達自身が授業中に発言を求められている時に、100%正解であると分かってないと手を挙げにくいという雰囲気があるということだ。進学型単位制となり、その前のことはよくわからないが、学校生活を送る中で、ORPや講演会を先生方が準備し、その中でこれから将来をどのように考えていけばいいのか、授業の受け方や学び方について考えさせられる機会がたくさんできた。しかもそれが毎月や、2ヶ月に1回などの定期的に行われてきた。年1回程度の講演であれば自分がこれからどのように学んでいけばいいのか忘れてしまうが、定期的に行われることによって、今の自分はここが足りていないということを自覚させられ、改めて前を向いていくことができる。

[司会]：先生方がいろんな仕掛けをしながら、生徒を上手く誘導しているのが分かった。SSHからここ10年来の三高を見てきてどんな変化があるか。

【委員】：10年前ほど、それより前に未履修問題があった。それにより授業のやり方を見直すという背景があり、大学に入ってくる学生の気質は変わった。元々よくできるが、どことなくやる気が感じられない学生がほとんどいなくなった。自発的にやる学生は増えたというのが未履修問題以降の一つの変化だ。また、いい雰囲気は続いている。細かい気質は分からないが、三高の先生方が一生懸命に取り組んできた伝統はしっかり引き継がれていると思う。時々難しいと思うことは、「知識」や「話し合っていて考えていく」ということが上位にあって、さらに、メタ的に全部網羅できるまでに、結局、知識や技能がないと解析できない。一番効率がいいのは、座学で教えて、しっかりと勉強することがベースにあるということだ。元々「探究活動」というのは、反転学習で生徒が全部勉強してくれば機能するというところがある。全部話し合いに持っていかない

というバランスが大切と考えている。大学も一緒である。

〔司会〕：基礎的なことを押さえておらず、難しいことに向かうのはより難しいということか。

【委員】：問いを作るのもそうだが、どのように解決するかといことはとても大切だが、そのためには、根底に知識が必要で、AIに聞けばいいのではないかと考える人がいるかもしれないが、知識が入ってないと頭の中でモデルができない。そこのバランスを考えながら進める必要があると感じている。過度に、探究、探究とならない方が正解かもしれないと、そんな気がしている。

〔司会〕：その他、何かあるか。

【委員】：三人の生徒の話を聞いて、発言がとても素晴らしいと思った。体験したことや学んだことをしっかりと言葉にして発表する場があるからこそ、自分の言葉で話ができるのだろうと思った。学んで、探究して、そして、しっかりと自分の言葉で話すという時間も大切に続けていたいただきたい。三人の生徒が素晴らしいので、三高も皆素晴らしいと思っている。代表として考えて話しているからだとも感じているが、生徒全員がこの三人のようになっていくと、大変良いだろうと感じたので引き続き応援したい。

【委員】：娘二人が三高を卒業した。上の娘はSSHの時で、下の娘の時はSRHだった。親の目線で見たと、明らかに探究を自発的にやるようになってきていると感じた。今の生徒を見ると、レベルが上がってきていると感じる。

【委員】：三人が素晴らしい話をしていてと思って聞いた。100%合っているとか合っていないとか、自分もそういうところで手を挙げられなかった。発言する人はいつも決まっていて、自分の考えを出すというのが難しく、少しの勇気が必要だった。実は、そのように思う生徒がたくさんいるのだと思う。どのように言えば良いかわからない。どのように伝えれば、相手に響くかわからない。話すのも、一つの技術である。話す順番とか、相手に伝わる話し方を生徒に教えられれば、参加型授業も、さらに盛り上がるのではないかと感じた。

〔司会〕：思いをどう伝えるかということ、工夫してもらえればと思う。

【委員】：参加型授業の取り組みが素晴らしいと思って拝見していた。授業を通して、生徒たちを主役にするということや、自己肯定感を高める生徒たち同士の間関係づくりに大きく寄与しているのだろうと思った。さらに、資料の「校内研修体制」で、それぞれの先生方が個々に頑張れば良いということではなく、学校をあげて組織として取り組もうという、こうした体制の構築に努められていることも、素晴らしいと感じた。これが、働き方改革の大きな柱にもなっていくのではないかと考えた。改革の目標の「目指す姿」に、「教職員一人一人がやりがいを感じながら業務に取り組んでいる」というのがある。このやりがいを先生方はそれぞれ持つと思うが、三高ではこの参加型授業をどう作っていくかということが中心にあり、これが教員の最も大切な教材研究の時間をどう確保していくかということにも通ずるものと思って、プランを拝見した。

【委員】：参加型授業について、参加生徒の皆さんの発言を聞いて、自分たちの時代とは随分変わったと思った。数年前に卒業した娘の時とも違う。今回、ワークライフバランスで目指すべき姿というのが資料に記載されていたが、是非ともこの目標に対してどのような実績だったのか、先生の大変だったところも含めて、次回、聞ければと思っている。

【委員】：これまでの委員の皆さんが話された通り、同感である。娘も三高を卒業しており、娘の時ともまた違って、後輩の皆さんのそれぞれの意見がしっかりして素晴らしい。三高の校訓や教育目標が自ずと3年間にそれぞれの生徒がしっかりと意識をし、学んで卒業していくのだろう。娘を見ていると、三高で得たものが自分の中にしっかりあって、糧になってきているなというのを

垣間見ることもあり、三高に入って良かったなど今でも思っている。

先生方に伺いたいが、資料の「本校勤務に満足している教職員」を80%以上とするという説明で、令和6年度73.9%が、昨年88.9%に大きく伸びたということだが、これは何か改善したとか、何かした結果なのか聞かせて欲しい。先生方の高い満足感が、先ほど委員の方から話があったように、生徒の学びの意欲にもつながっているのだろと思っている。

〔司会〕：先生方、いかがか。

〔総務〕：自分は、当初から満足している。先生方においては、意識の高い先生方が多くいて、仕事が一か所に固まらないようにと分担して仕事をしているので、自分は6年間ずっと満足している。管理職が気を配って、午後7時以降は残らないようにするとか、そういうところが少しずつ形になっていると思う。

〔進路〕：業務の精選やそういったことは進んでいると思う。また、週休日はできるだけ生徒が復習する時間に充てられるようにした。今までは入試対策ということで土曜日も講義を行ってきた。1時間目から8コマぐらいやっていた時期もあったが、それを削減した。土曜日は、校舎開放はしているが、形式を変えた。そういう部分も、意識の変化に表れたのかもしれない。いずれ、業務の精選が、いろんな部署で進んでいるということもある。

〔司会〕：昨年度は満足したという人が増加したということ。このほか、何かあるか。

〔委員〕：先ほどバランスを少し考えた方がいいと話したが、バランスは、今、非常に良い状態と思っている。仕事柄、様々な高校に行く。参加型を一生懸命やりすぎて、言い方が悪いかもしれないが、とにかく、発言しなければならなくなっている学校もある。先生が発言しろというから生徒が仕方なく発言しているような高校もある。三高は、課題研究・探究活動の発表も、他の学校に比べて非常にレベルが高いと思っている。SSH校と比較しても全く遜色ないレベルだ。したがって、非常にうまく回っている状態と思っている。参加型で有名な分だけいろいろなところから見学が来ると思いますが、その参加型が縛りにならないようにと思っている。やらなければいけない、何か発言しなければいけないとなってしまうまいように思う。発言したいときに発言するのが一番効率がいいし、しっかりと地に足の着いた話し方に変わっていく。現状をキープしながら、そして生徒に強要しないような雰囲気作りが必要と思っている。

元々、探究型や参加型もフンボルト理念が背景にあって、ごく一部の人で自律的な人物を作ろうというもの。取り入れすぎると難しくなり、もともと高等教育用の理念で、令和の答申があるからやらなくてはいけないのはその通りなのだが、過度にやりすぎずに、疲弊しない程度でいいと思う。今、とてもうまくいっていると思うので、生徒に強くないように進めていくのがいいと思う。

本日参加の生徒も、先日の研修会で話してもらった。いい発言をしていたし、雰囲気作りも良かったと思う。研修会が活発に感じた。是非、今の雰囲気を大切に続けてもらいたい。

〔司会〕：たくさん良い意見をいただいた。以上で意見交換を終わる。

〔副校長〕：学校にとってプラスになる話を沢山いただいたことに感謝する。第2回は、令和9年2月9日を予定している。以上をもって、第1回の学校運営協議会を終了する。